

癒しの旅先案内人による 森林セラピー紹介

うきはとの出会いは、わずか2年前です。森を歩き、すっかり魅了されました。市全体が森林セラピー基地です。

田植え直後のつづら棚田の中で1泊しました。鏡のような水田に、昼間は空の雲が、そして夜は月や星やホテルが映るのを見たかったからです。カエルの大合唱と共に眠り、夜明けの澄み切った小鳥のさえずりで目覚めました。誰もいない早朝の森歩きは、極上の世界です。

1枚の棚田の中には、見飽きることのない生態系があり、石垣の植物も虫メガネで観察するとおもしろい！田を潤す水の流れを聴きながら、同時に、棚田の稲作に関わる方々のご苦勞も思ったのでした。果樹園や田畑も同様に。

森に身をゆだねる。五感を研ぎ澄まし、森を感じる。その調和感が得られた時に、元気をもらおう気がします。うきはに住まれる皆様と自然界の生命に感謝しつつ、さあ、森へ、ご一緒いたしましょう。



癒しの旅先案内人 光岡 裕子

☆☆☆シリーズ「うきはブランド推進隊の活動紹介」☆☆☆ 地域外の人材を招致して地域力を高める「地域おこし協力隊」の制度。「うきはブランド推進隊」として、現在10人がミッションに取り組んでいます。

文化財保存活用プランナー
竹熊 若葉

9月15日のうきは市寺子屋で、「うきはの古墳」に関する特別講座を行いました。通常は市内の小学生が学校の宿題などに取り組みますが、今回は市内の古墳を、教科書上のものではなく、「かけがえのない地域の宝」として知ってもらおうと、特に貴重だと言われる装飾古墳を体験するというプログラムを実施しました。(写真)

うきは市の装飾古墳によく使われる石材を石版に仕立て、そこに古代とほぼ同じ素材の顔料を使用し、各々で絵を描いていきました。

古墳の絵柄も用意していましたが、個性が光る作品が多く見られました。子ども達は特に、使用されている素材や絵の内容に興味を示していました。が、なかには、「昔の人は亡くなった人に心を込めて絵を描いていたこと」という意見もあり、主催者側も思わずうなる感想でした。

個人的な意見ですが、地元を出て他の地域に移ったとき、地元を思い出すことが多ければ多いほどいいと考えています。そのためには、幼いころから地域のことを知る機会が必要だと感じています。今回の機会は、ご縁があったことで、地域の歴史や文化に触れることが少しでも子どもたちの心に残り、ふるさとの想い出の一つになればという想いを胸に、今後も活動を進めていきたいと思います。



うきは暮らしプランナー
矢倉 誠人

今年も大阪大学経済学部松村ゼミの学生、教授合わせて12人が、ゼミ合宿としてうきは市に3日間滞在しました。

うきは市へのゼミ合宿は去年に引き続き2回目です。去年が大満足の内容だったからということで再訪されたようで、私としてもうれしい限りです。

このゼミ合宿では、うきは市が抱える社会問題に対して学生たちが学問的な視点で話し合うだけでなく、うきは市の魅力を知ることにも目的とされていますので、道の駅やつづら棚田の見学(写真)、白壁の街並みを歩いたり、沢登りをしたりなど、うきはの魅力を最大限に堪能していただきました。

去年来ていただいた学生の中でうきはが好きになり、その後何度も足を運んでいただいた方が何人もいます。

今年もそういうつながりが生まれれば嬉しいなと思います。



▲ ゼミ合宿としてうきは市に3日間滞在した大阪大学経済学部松村ゼミのみなさん(つづら棚田を見学)